

芋菓子のヒットで躍進した和菓子店「紋蔵庵」

～川越いも文化活動の波にのって大きく成長！～

川越いも友の会 事務局長

やま だ えい じ
山 田 英 次

1 はじめに「川越いも文化活動効果とサツマイモ商品」

現在、川越の街中の観光地域を歩くと数多くの芋菓子やサツマイモ関係製品が観光商品として売られている。約35年前のまだ大きな観光地ではなかった頃は、川越の芋菓子と言えば伝統的な「芋せんべい・芋納糖・芋松葉（芋ケンピ）」の3種類ぐらいで、それ以外の芋菓子はまず見当たらなかった。昔から「川越と言えばサツマイモ」と言われるほど有名であったが、イメージとしては「イモねーちゃん」という揶揄に代表されるように、食材としての価値ランクも低く、業者も積極的に新しいイモ商品をつくろうという雰囲気はなかった。さらに歴史的に、なぜ川越がサツマイモで有名なのか、地元の市民もその理由を知らなかった。そんななか、川越いもの生産量が年々減少するという背景もあり、市民運動として1984年に「川越いも友の会」が有志により発足し、さつまいも大学講座や料理教室、シンポジウム、冊子の発行、川越いも祭りなどのサツマイモをテーマにしたまちづくり文化活動が活発に展開されると、各種のマスコミがそのユニークな「イモ復権」活動を取り上げるようになった。その効果で、外から川越に遊びにくる人達からもお土産として芋菓子が特段に売れるようになり、

或る菓子屋は、いきなり芋菓子が3倍くらい売れるようになったりもした。このような経済効果を「情報発信による文化営業効果」といってもよいのだろう。このように観光客向けにサツマイモ関係商品が売れるようになると、各店も積極的に独自に新しい芋菓子製品を開発し、アイディアあるサツマイモ料理などを提供する店も現れた。さらに世界で唯一の「サツマイモ資料館」が川越で開設され、また同時に1989年にNHK大河ドラマで川越が取り上げられたりで、さらに観光ブームに火がつき、右肩上がりで現在のようなサツマイモ商品があふれるまちとなった。

2 紋蔵庵の歩みと7代目社長小泉昌弘氏

和菓子店「紋蔵庵」の歴史は、初代紋蔵が幕末の慶応元年（1865年）に川越藩の東部の古谷村（現：川越市古谷上）に菓子屋を開業したのが始まりといわれる。当時は、水田での農業を営みながら地域の正月・祝事・仏事向けにまんじゅう・赤飯・大福などの生菓子をつくっていたという。その後、一時パンやクリスマスケーキなどを製造販売することもあったが、昭和58年（1983年）に正式に和菓子専門店の業態となり、3年後の昭和61年に有限会社亀屋紋蔵として会社組織になった。

サツマイモを素材とした芋菓子づくりをスタートさせたのは平成元年（1989年）からであったが、平成3年（1991年）の古谷上の本店の店舗と製造工場の改装を契機として、チャンスが訪れるごとに、翌年の平成4年に川越市内の喜多院門前店、平成10年に川越郊外の上福岡店、さらにその後、平成23年に川越市西部の川越西店、翌年の24年に川越駅西口そばに川越店、さらに平成26年に川越郊外のふじみ野店と、着実に店舗数を増やし、現在は6店舗を有している。今では従業員数も約100名となり、川越で美味しい芋菓子を製造販売する代表的な企業「紋蔵庵」として親しまれている。



紋蔵庵の縁起だるま「川越特大いもダルマ」
(喜多院門前店で小泉昌弘社長とともに)

7代目社長の小泉昌弘氏（現55歳：昭和38年1月生まれ）は、地元の高校を卒業後、昭和56年（1981年）より家業の和菓子店に入り、専務を経て平成20年に社長に就任した。現在、100種類ほどの和菓子を製造しているが、そのなかの約30種類はサツマイモを使用した芋菓子類で、いくつかの代表的ヒット芋商品を生み出している。このように、川越のサツマイモ文化活動効果の波に積極的に乗って、芋菓子をベースに大き

く店舗を拡大した業績は昌弘社長よところが大きい。商売理念は「お菓子を通じて社会貢献と、お客の幸せを創造すること」を謳っているが、美味しい芋菓子をつくるこだわりのポイントは「良い原料を使う」「手間をおしまない」「サツマイモは皮を生から剥いて、イモの風味を大切にする」ことだという。当初より原料のサツマイモも信頼できる専門業者から仕入れている。



喜多院門前店での小泉社長と従業員

また小泉昌弘社長は、平成6年（1994年）に発足した川越サツマイモ商品振興会の世話人として積極的に「いも供養(10月13日)」などにも関わり、いも仲間との縁を大切にしている。小泉昌弘社長のモットーは「念ずれば花開く」だという。

3 数々の代表的ヒット芋菓子

川越の観光地の人気の芋菓子類をいくつかあげれば、「いも恋まんじゅう」（右門）、「いもドーナツ」（稲葉屋）、「焼き芋おにぎり」（翠扇亭）、「芋クリームどら焼き」（道灌）、「さつまいもバームクーヘン」（ノリスケ）などがある。それらと並んで、紋蔵庵の人気のヒット芋菓子は「川越ポテト」「つばさかりん」「川越ぽてとクッキー」「川

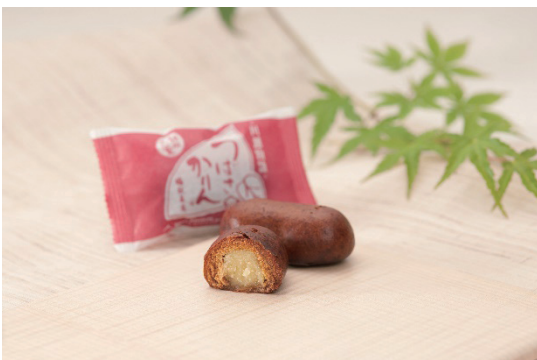
越江戸の母」などがあり、特に「つばさかりん」は一番の代表的なヒット商品となっている。

まず「川越ポテト」は、平成元年にはじめてつくった芋菓子で、イモの他に白いんげん豆・バター・卵黄・ブランディーなどを材料にしたカップ型のスイートポテトである。川越ならではの特色ある菓子をつくらうと思って創作したという。



紋蔵庵の定番「川越ポテト」

「つばさかりん」は、NHK朝の連続テレビ番組「つばさ」(平成21年前期放送)をきっ



代表的ヒット芋菓子商品「つばさかりん」

かけに前年の平成20年に開発した商品で、イモの他に白あん・こがし蜜などを材料にした揚げカリントウまんじゅうである。黒糖味とサツマイモ餡がマッチして美味しい味を演出している。店によっては売り切れになることもある人気の芋菓子となっている。



お子様にも人気の「川越ぼてとクッキー」

「川越ぼてとクッキー」は、お芋そっくりな可愛らしいかたちをしたクッキーで、バター・卵黄・芋粉・紫芋などの材料を使っていて、密かなファンもいる菓子である。

4 今後の展開

最後に小泉昌弘社長に、今後の更なる展開を聞いたところ「今年11月末に、川越観光の中心地である蔵造り街並みの通りに、カフェも併設した店を出店する計画だ」という。これからの更なる飛躍に期待したい。